

講義名	課題演習（経営管理）		
科目区分	実学系演習科目		
担当教員	濱本 隆弘		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限		
	2018年度 大学院（修士課程） 修士課程（修士論文作成コース） / 2017年度 大学院（修士課程） 修士課程（修士論文作成コース） / 2016年度 大学院（修士課程） 修士課程（修士論文作成コース） / 2015年度 大学院（修士課程） 修士課程（修士論文作成コース）		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		講義コード	43502

主題と概要

本演習では修士論文作成も視野に入れて、問題意識から研究テーマの選定、文献の選択、調査計画の策定、仮説のたて方と論証の方法、結論の導き方の指導を行う。
 演習後半は、受講者が交代で研究テーマに沿ったプレゼンテーションを行う。自分の報告だけでなく、他の受講者の報告に接し、有益な質問や助言を提供したり、また教員とのやり取りの中で学術的な研究の方法を学ぶ。

到達目標

修士論文を作成する者は、そのテーマとの関連づけを十分にとり、論文テーマの候補と参考資料・文献の検索収集を重ねつつ、演習でのプレゼンテーションを経て、論文制作の基盤づくりに努めてもらいたい。その進歩とともに、章立てや内容構成、論旨と主張の正確さと独自性そして新規性など、論文としての精緻化を目指す。

提出課題

演習の後半から毎回受講者によるプレゼンテーションを行う。
 ・報告のレジメを作成し、参加者に配布
 ・報告に関するレポートを提出
 提出についての詳細は、演習開始後、受講生と相談の上決定する。

評価の基準

プレゼンテーションとレポート 70%
 演習への貢献度 30%
 貢献度は発言回数や発言内容、演習への出席状況などで総合的に判断する

履修にあたっての注意・助言他

後半のプレゼンテーションでは、以下のような内容が求められる。
 ・論文構想の報告
 ・先行研究の報告
 ・研究方法の報告

プレゼンテーションを行うにあたって、パワーポイントの使用すること。
 ・報告のレジメを作成し、参加者に配布

提出についての詳細は、演習開始後、受講生と相談の上決定する。

教科書

・使用しない。

プリント資料及び参考文献

<プリント資料>
 テキストは決まず、講義時に毎回資料を配布する。
 流料ポータルからダウンロードする場合もある。

<参考文献>
 伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣、2001年
 小浜裕久 / 木村福成『経済論文の作法第3版 勉強の仕方・レポートの書き方』日本評論社、2011年

授業計画

1. 演習と修士論文について 研究の方向付け（良い研究とは何か）
2. 論文を書く（1）テーマ、問題意識、仮説など
3. 論文を書く（2）論文の構成、先行研究と引用、注記など
4. 論文を書く（3）事例を基にした具体的考察
5. 論文を書く（4）事例を基にした具体的考察
6. 受講者による問題関心についてのプレゼンテーション、ディスカッション
7. 受講者による問題関心についてのプレゼンテーション、ディスカッション
8. 受講者による問題関心についてのプレゼンテーション、ディスカッション
9. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（1）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）
10. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（2）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）
11. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（3）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）
12. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（4）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）
13. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（5）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）
14. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（6）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）
15. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（7）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）

予習・復習

講義で使用するスライドや資料は流料ポータルにアップしてあるので、自分でダウンロードして、予習・復習に使用すること。必ず1週間前には講義スライドをポータルにアップします。

講義中にダウンロードの指示があったら、次回の講義に合わせて随時予習をすること。また、ダウンロードは前期終了時まで可能にしているため、復習にも使用すること。

備考

オフィスアワー
 研究室： 研究棟 1階 111号
 時間： 月・火・水・木 の昼休み